

令和6年度 香川短期大学

学校推薦型選抜後期・一般選抜後期

『小論文』問題用紙

部活動は、生徒が自主的にスポーツ・芸術活動を享受するだけの場にとどまらず、生徒指導の機会や進路形成のきっかけになるなどの教育的役割や、さまざまな社会的役割を担っている。

社会的役割としては次の3点が挙げられる。第一に、中学生にとっての〈学童保育〉の役割を担っている。ほとんどが高校へ進学する現在の中学生はまだ保護者の保護下にある存在である。一方で、社会構造の変化に伴い、保護者の労働時間を中心に生活スタイルは多様化している。このような社会状況にあって、中学生は部活動に加入していれば、平日の放課後や週末も学校で過ごすことができる。第二に、社会的なつながりをつくる役割を担っている。ある調査によると、部活動に加入している中学生が部活動に期待していることとしては「好きなことが上手になる」を抑えて「仲のよい友だちができる」の割合が最も高かった。部活動には自分の好きなスポーツ・芸術活動をしながらも、友だちと過ごしたり友だちをつくったりすることもまた期待されている。第三に、出身家庭の文化的格差の縮減の役割を担っている。再び先の調査によれば、学校外活動に加入してスポーツ・芸術活動ができるかどうかは家庭の経済的背景の影響を受けているが、部活動への加入は家庭背景によらない。部活動は中高生が学校教育活動の一環として少なくとも一つはスポーツ・芸術活動を享受できる場であり、出身家庭の経済的背景等の差異に基づく文化的格差を縮減する機会となりうる。

他方で、社会的課題もある。一つは、学校規模差・地域差の問題である。生徒数・教員数等の学校規模、地勢・気候や人口規模等の地域特性によって、提供できるスポーツ・芸術活動種目の数や種類に違いがある。もう一つは、教員の多忙化の要因の一つといわれていることである。そのため、部活動を学校外部の指導者に委ねようという動きが加速している。

(出典『教育社会学事典』丸善出版、385頁。なお、一部改変している)

設 問

上記の文章を読んで、「私が考える部活動の意義」というテーマで自身の経験も盛り込んだ小論文を作成しなさい。(800字以内)

日本が世界に誇るアニメや漫画は国際交流でも活用されています。外務省ホームページに掲載された以下の記事を読んで設問に答えなさい。

【ポップカルチャー外交】

外務省では、我が国に対するより一層の理解や信頼を図るため、「ポップカルチャー専門部会」が設置されていた海外交流審議会の答申（2008年2月）も踏まえ、従来から取り上げている伝統文化・芸術に加え、近年世界的に若者の間で人気の高いアニメ・マンガ等のいわゆるポップカルチャーも文化外交の主要なツールとして活用しています。

その一環として、「日本国際漫画賞」を、外務大臣を委員長とした実行委員会を組織して実施しています。この賞は、麻生外務大臣（当時）のイニシアチブを受け平成19年に創設された賞で、海外への漫画文化の普及と漫画を通じた国際文化交流に貢献した漫画作家を顕彰することを目的として、同年以降毎年実施しています。

日本のアニメ作品を日本そのものへの関心につなげることをねらいとし、平成20年3月、「ドラえもん」に高村外務大臣（当時）から「アニメ文化大使」の就任要請書を手渡しました。これに併せ、劇場版映画「ドラえもん のび太の恐竜 2006」に英仏西中露の5か国語の字幕をつけて制作し、令和5年3月末までに、世界の73か国・地域で上映しました。
(2024年1月25日掲載外務省ホームページより抜粋)

ポップカルチャーとは、大衆向けの文化全般のことを表しますが、現在では「訴求力が高く、等身大の現代日本を伝えるもの」という意味でも使われます。具体的には、漫画、アニメ、映画、ゲーム、ライトノベル、ポピュラー音楽、テレビなどのことを指し、世界に向けて多種多様な作品が紹介されているだけでなく、各国で日本のポップカルチャーの魅力を発信する様々なイベントが行われています。これらの作品やイベントを通じてポップカルチャーに触れ、ファンになったことで、日本語や日本文化に興味を持ったという人は世界中に数多くおり、今やポップカルチャーは、日本に対する理解や信頼を深めるための重要なツールのひとつになっているのです。

(2016年1月7日掲載外務省ホームページより抜粋)

設 問

上記の文章を読んで、「アニメや漫画の魅力について」というテーマで自身の経験も盛り込んだ小論文を作成しなさい。(800字以内)